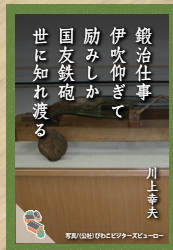


## 第15首

大津エリア

作者 中島朋子

歌意 ハイキングの団体とすれ違い挨拶した時は、とても爽やかな気持ちになりました。昔なら関所なので、緊張したでしょうね。出会いと別れの場所でも。



## 第16首

湖北エリア

作者 川上幸夫

歌意 火縄銃を仕上げるには、瓦金という鉄板に芯を入れて筒の形にします。その接合部分を分からなくなるまで鍛えます。国友鉄砲鍛冶の職人技は今でも光っています。

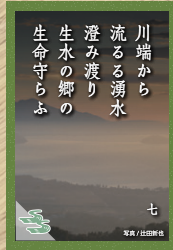


## 第17首

東近江エリア

作者 松浦宣子

歌意 静かな景色が好きです。長居がたくなります。

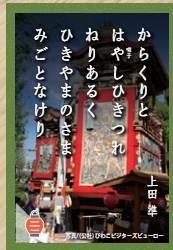


## 第18首

高島エリア

作者 七

歌意 ふるさと高島の風景を想いました。いつまでも清き水が流れる故郷でありますように。我が父母をいつまでもお守り下さりますように。

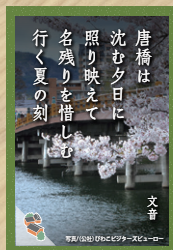


## 第19首

大津エリア

作者 上田 準

歌意 大津の街を巡行する曳山の豪華さと迫りに圧倒されたので、その特徴を歌にして残したいと思いました。



## 第20首

大津エリア

作者 文音

歌意 夏の終わりに近づいた方に、唐橋を渡った時の情景を詠みました。美しい夕景と少し秋の気配を感じる物寂しさが心に残りました。

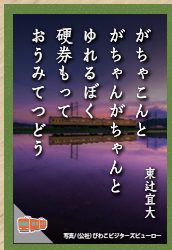


## 第21首

大津エリア

作者 北条 暦

歌意 近江神宮で毎年行われるかるた大会は、観る者の五感に響く迫力があります。



## 第22首

その他

若歌賞

作者 東辻宜大

歌意 ぼくは電車が好きです。特に近江鉄道のガチャガチャンというゆれと音が好きです。それから、硬券切符を買えるのも昔みたいで好きです。

高田さん COMMENT

上の句でなぜ揺れるのかと思わせて、下の句が自然な答えになっています。「硬券」の二文字が、一首にノスタルジックな雰囲気を感じさせています。

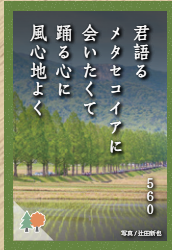


## 第23首

湖北エリア

作者 中村妃都美

歌意 嫁いできて、40年以上。若者が減りつつある中、移住されてきた方々も増えつつある、この町の変わらない街並みが好き。



## 第24首

高島エリア

作者 560

歌意 夫が好きなメタセコイア並木をやっと見に行く道中の161号線、琵琶湖の風・風景がとても心地よく、さらに心躍ったことが忘れられない。

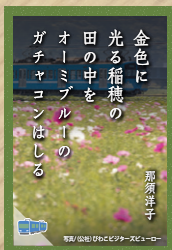


## 第25首

大津エリア

作者 ヤマメ

歌意 三回目のデートで比叡山からの夜景を見に行きました。告白される予感があったので私は黙って夜景を見ることに集中しているふりをしていました。

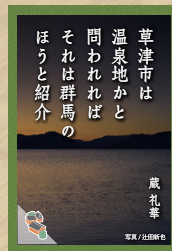


## 第26首

湖東エリア

作者 那須洋子

歌意 私の住んでいる豊郷町は農村地帯です。黄色く実った秋の田園の中を近江鉄道の電車が走ります。ブルーと黄色い田んぼの色がキレイです。

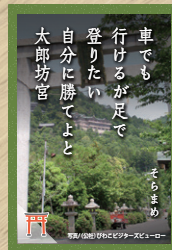


## 第27首

湖南エリア

作者 蔵 礼華

歌意 県外の方に「滋賀県草津市から来ました」と伝えと、「温泉地だね」とよく言われます。「それは群馬のほう」と答えた後の反応も楽しめています。



## 第28首

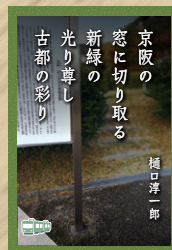
東近江エリア

作者 そらめめ

歌意 太郎坊宮は、途中までは車でも登れますが、自分の足で登ってこそ願いが叶うと信じています。



写真 / 辻田新也

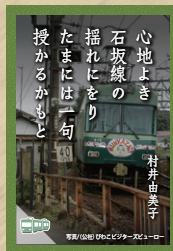


## 第29首

大津エリア

作者 樋口淳一郎

歌意 近江大津宮跡を訪ねたときの歌です。京阪に乗りました。

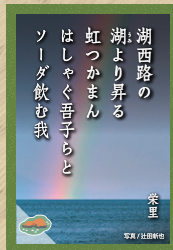


## 第30首

大津エリア

作者 村井由美子

歌意 身近で好きな京阪電車石坂線。程よい揺れに身を置き、趣味の俳句の種を探したり。授かりものの一句が出来るかもとの微かな望みを胸に…。



## 第31首

琵琶湖

作者 栄里

歌意 高島市へ家族でドライブの途中、琵琶湖の上に虹ができているのを見つけ、車を停めて虹の出ているところまで行こうと話をした思い出を詠みました。

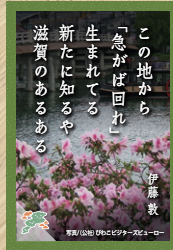


## 第32首

高島エリア

作者 コウノスケ

歌意 マキノの栗園の近くにあるメタセコイアの並木道が、韓流ドラマと同じような風情があり絶好の撮影スポット。

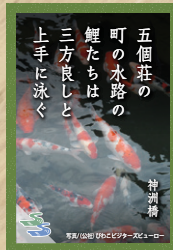


## 第33首

大津エリア

作者 伊藤 敦

歌意 令和版近江百人一首の応募用紙を見て、滋賀県に興味を持ちました。滋賀が発祥の言葉のなかで琵琶湖に関する「急がば回れ」が印象的でした。

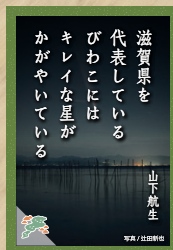


## 第34首

東近江エリア

作者 神洲橋

歌意 東近江市五箇荘金堂に商人たちが築いた町屋敷、水路、先進的な暮らし。水路の鯉たちもまた商人たちの心得を知るかのように泰然と泳ぎます。



## 第35首

琵琶湖

作者 山下航生

歌意 自分が夜に琵琶湖へ行った時に、琵琶湖に映っている星がキレイだったので、その時のことを思い出して詠みました。